

重点施策マネジメントシート 令和5年度事後評価

重点施策	105	旭市生涯活躍のまち・あさひ形成事業	主管課	S	目標値を達成(見込み)
基本目標	5	旭市生涯活躍のまち・あさひ形成事業	関係課	A	基準値より上昇(10%以上)
				B	基準値より上昇(10%未満)
				C	基準値と同水準(基準値と同値~△10%未満)
				D	基準値より下落(△10%以上)
				—	評価不能(KPIの実績値が無い状態)

(1) 施策の目標指標、KPI

① 目標指標	指標		基準値	⇒	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	⇒	目標値 (~R6)
	6	人口の社会増減	-11人 (H30)		-74人	-61人	93人	-43人			
② KPI	重要業績評価指標(KPI)		基準値	⇒	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	⇒	目標値 (~R6)
	13	生涯活躍のまちへの移住者数(定住1)	0件 (R1)		-	-	-	-			累計200件
	14	移住相談件数	91件 (H30)		114件	148件	160件	176件			200件

(2) 施策に関する検証

③ 目標指標	指標・関係課名	目標指標の実績値と状況の理由等	
6	人口の社会増減 企画政策課	【達成状況:D】 ・令和3年まで続いていた社会減が令和4年は社会増に転じたが、令和5年は再び社会減となった。令和4年度の状況と比較すると、日本人の転出者数が増加(令和4年 1,561人→令和5年 1,616人)かつ外国人の転入者数が減少(令和4年 961人→令和5年 865人)しているため、合計数が減少している。	
④ KPI	KPI・関係課名	KPIの実績値と状況の理由等	
	13 生涯活躍のまちへの移住者数(定住1) 企画政策課	【達成状況:-】 ・商業施設が整備された後に特別養護老人ホームや住宅は順次開発される予定のため、KPIの実績はカウントできないが、事業者グループで検討が進められている。	
14 移住相談件数 企画政策課	【達成状況:A】 ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことから、ふるさと回帰フェア等の都内で行われる対面相談会への参加を増やしたことや、移住サポートセンターの周知が広まり、センター受付の相談件数が増加(R4:7件→R5:31件)したことにより、前年度実績を上回ることができた。内訳は、104件が定住促進奨励金の制度説明を含めた移住に関する相談件数、72件が移住セミナーや移住イベント等での相談件数である。		
⑤ 施策全体	関係課名	施策の推進に向けた問題等	令和6年度以降の方針
	企画政策課	・まちの魅力のさらなる向上につながるソフト面の充実 ・既存事業との連携	・民間事業者が整備主体となる特別養護老人ホーム等のハード整備が予定されており、多世代での交流や地域の活性化を図る拠点づくりについて、ソフト面を含めて、事業者グループと検討していく。 ・事業効果の域内波及を目指すため、事業者グループが設立したエリアマネジメント組織「一般社団法人みらいあさひ」が、協力団体である「みらいあさひ協議会」(構成員:商工会、青年会議所、観光物産協会等)と取りまとめた生涯活躍のまち・みらいあさひ付近のまちづくりビジョンの活動について、側面支援を行う。

推進委員会からの意見(要旨)

①みらいあさひについて、最近では駐車場も混みあっており、新たな人の流れや賑わいがみられる。患者、職員にとってもメリットが多く、当院は敷地内に多くの医師や看護師が居住する宿舎があるため、医師の招へいや看護師の採用活動においても追い風になっている。病院でも院内で実施していた市民健康講座、病院まつりを昨年よりおひさまテラスで開催しており、好評であったため今年度もおひさまテラスで開催している。今後も市と連携しながらまちづくりに貢献できればと考えている。

推進委員会からの意見に対する担当課の考え

①おひさまテラスの指定管理者からも、旭中央病院とのコラボイベントは毎回多くの方が来館されていると伺っています。みらいあさひのまちづくりは旭中央病院を核としており、市と旭中央病院の双方にメリットが生まれることは好ましいことですので、今後もまちづくりのパートナーとして、引き続きの連携と協力を図っていきます。